130
2024冬

# にってん フォーラム

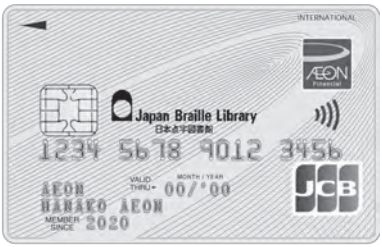
高田馬場（いち　にーさん　しっ！）１－２３－４ —— 長岡英司
日点みんなの集い開催
本間一夫文化賞受賞記念講演
　武久源造氏「音楽における視覚と聴覚」
武久源造君の
　本間一夫文化賞受賞に寄せて —— 堀越喜晴
表彰のお知らせ
サイトワールド出展報告 —— 村尾正豊
高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」
　を受賞しました！ —— 立花明彦
にってんワークショップ「聞く」開催報告
川崎市視覚障害者情報文化センターだより —— 橋口講平
「江戸から昭和のマイホーム」展　開催中 —— 伊藤宣真
私と日点 —— 塩月さわ
リレーエッセイ —— 久保典子
ご存知ですか？こんな商品
チャリティコンサートご協力のお礼

このたびの石川県能登地方を震源とする地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

今なお避難されている皆様、復興作業にご尽力されている皆様の安全と被災地の一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

ISSN　0916-8877

# 日本点字図書館カード
# 会員募集中




**入会金・年会費無料**

あんしんの盗難紛失保障付

※カードの発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を
社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。
寄付金は、点字図書、録音図書の製作・貸出に役立てられます。
（※カード会員さまのご負担はございません）
みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで
視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・
お申込みはこちら

日本点字図書館カード　検索

■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで
（受付時間 9:00～18:00）年中無休
0570-071-090（ナビダイヤル：有料）
043-296-6200（有料）
お電話番号をよくお確かめの上、お間違えのないようご注意願います。

---

イオン銀行
（業務受託会社）
イオンフィナンシャルサービス

# 新たな通勤経路に慣れるには

理事長　長岡英司

昨秋、自宅の引っ越しをしました。33年半住んだ千葉県北西部の市から都内への転居です。通勤経路も完全に変わりました。年齢とともに全盲者としてのいわゆる勘が衰えたせいか、進展は遅いのですが、すこしずつその新しい経路に慣れつつあります。

転居前の通勤は、ＪＲの２路線を日暮里駅で乗り換える経路でした。電車内や駅はいつも混雑していましたが、ストレスなく往復できるようになっていました。それは、各場所での身の処し方の判断に必要な情報が、いつの間にか記憶の中に蓄積されていたからです。例えば、利用する駅の構造、電車の各車両の停止位置、騒音を含めた音環境、人の流れなどです。そうした情報を特別に意識することなく自然に活用して、気軽に通勤できていました。日暮里駅や高田馬場駅にホーム柵が設置されたことも、ストレスの軽減に役立っていたと言えます。

新たな通勤経路には、ＪＲ新宿駅での乗り換えがあります。これが私には難所なのです。まず、新宿駅にはまだホーム柵がありません。大規模な工事が続いているためとも聞きます。難所の理由の一つはその工事です。ホーム上には工事の構造物があり、進路が妨げられます。仮設の床面は不安定で、位置の把握に有効な、傾斜や凹凸などの情報を白杖や足裏から得にくく、点字ブロックの識別も容易ではありません。電車の頻繁な発着や雑踏、様々な案内音声で、音環境も劣悪です。そして、ラッシュ時の混雑です。ホーム上は人で溢れ、思う方向に進めません。そのような新宿駅ではなるべくホーム上を移動したくないので、乗り換えをしやすい階段やエスカレータの近くに降りられる乗車位置を見出すことをまずは行いました。乗車する駅でそこに確実にたどり着くにはどうすればよいか、歩数を数えたり、ランドマークになる物を探したりと、電車内のドア番号の点字表示を手掛かりにして模索しました。この通勤経路でも驚くほど多くの親切に日々遭遇しています。そうした善意をいただきながら工夫と経験を重ねて、次第にスムーズに通勤できるようになるのでしょう。

# 日点みんなの集い開催

2023年11月11日（土）、長年当館を支えてくださり、この一年間に奉仕活動を勇退された点訳・朗読・業務奉仕者と、本間一夫文化賞受賞者をお招きして表彰式典を行ないました。

本間一夫文化賞は視覚障害者の文化・福祉・教育の向上に貢献した個人・団体に贈られる賞です。今回で20回を数えます。

勇退される奉仕者ならびに受賞者の皆様のご芳名を以下に記し、心より感謝申し上げます。

◆勇退奉仕者・団体◆

市川晴雄様　伊藤妙子様　大田　怜様　奥野泰子様　小栗よね子様
斎藤正子様　塩飽征乃様　高崎文子様　高橋 京 子様　千葉かつ子様
塚田邦子様　樋口健史様　武藤淑子様　山内淳子様　山川典子様
英語点訳サークル「ルイ」様

◆本間一夫文化賞◆

協賛：（公財）日本テレビ小鳩文化事業団、（福）読売光と愛の事業団

第 20 回受賞者：武久源造（たけひさげんぞう）様

武久源造氏

武久氏は全盲の鍵盤楽器奏者です。1957 年、松山市で全盲の両親の間に生まれ、１歳のときに病気で視力を失いました。盲学校の音楽教師だった父・博文（ひろふみ）氏の影響でピアノを習い始め、1977 年、東京藝術大学に入学。1984 年に同大学大学院を修了されました。コンサートでは中世から現代まで幅広い時代の楽曲を網羅し、チェンバロ、ピアノ、オルガンなどを駆使した演奏活動のほか、作曲家、指揮者としても活躍されています。

武久洋子氏

バッハが生前に弾いたジルバーマン・ピアノの研究で知られ、楽器の繊細な調整や部品の製作を自ら行ない、バッハが追い求めた幻の音色の創造にも力を注いでいます。また、点字楽譜のない楽曲に挑戦する際は、独自で点字楽譜をつくります。音楽史や楽器製作への造詣と楽曲に対する深い洞察力による演奏は国内外で高く評価されています。

近年では器楽として知られるバッハの楽曲と踊りの結びつきを再考し、バロックダンサーとともに当時の演奏状況の再現に取り組むなど精力的な活動が注目を集めています。

式典当日は武久氏がコンサートツアー中で会場にお越しになれなかったため、夫人の洋子（ひろこ）氏が代わりに賞状や記念品を受け取られました。武久氏はオンラインで出席され、記念講演をしてくださいました。

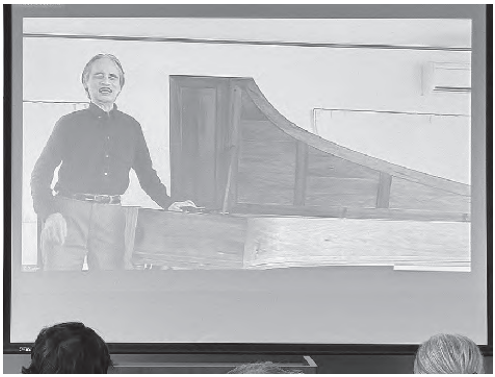
本間一夫文化賞受賞記念講演

# 武久源造氏「音楽における視覚と聴覚」

コンサートツアーのため愛媛県に滞在中の武久氏は、古楽器のジルバーマン・ピアノを傍らに、時に演奏を交えながら明るい声を届けてくださいました。

バッハが出会ったというジルバーマン・ピアノはその多くを木製部品で構成し、弦は柔らかい軟鉄を使用するなど、私たちのよく知るピアノとは異なる楽器です。しかしバッハが実際どのように使用していたかは記録がなく、武久氏はそんな難しい研究を続ける貴重な一人です。例えば弦を打つハンマーに使う羊皮紙には数多の皮革を試したり、羊皮紙を浸す膠（にかわ）も調合を変えたりと悪戦苦闘の日々といいます。温度などのちょっとした変化で音が狂ってしまう古楽器ですが、メンテナンスの苦労を補って余りある表現力の豊かさがその魅力だと語ります。

「音楽の表現とは何を語るか、何を描くかです」と話す武久氏が大学で専攻したのは音楽修辞学です。これは伝えたい内容を特別な音型などで表現するもので特にバロック期に盛んでした。当時の聴衆はその音楽を聴いたときに何を連想すべきかわかったといいます。「作曲家の伝えたい内容を理解してくれる聴衆がいたからこそ当時の音楽は成立していた。音楽がコミュニケーションの手段になっていたということが大事なことだと思います。」 そして、そんな作曲家の思いを汲み取り現代に蘇らせることは、期せずして当時の人も考えなかったような新しい表現が生まれるのではないかと武久氏は夢見ています。



松山市の教会からオンラインで

現代は少し元気がないと憂慮する武久氏は、自身の研究するバッハの音楽はわからないことが多いがゆえに未来の音楽であり、面白いのだと語り「一緒に未来をつくっていきましょう」と力強いメッセージを贈ってくださいました。

利用者の方は、にってんデイジーマガジン 2023 年 12 月号で本講演の内容をお聞きいただけます。

# 武久源造君の本間一夫文化賞受賞に寄せて

明治大学非常勤講師　堀越喜晴（ほりこしよしはる）

この度、私の生涯の親友、武久源造君が、日本点字図書館から栄えある本間一夫文化賞を受賞されましたことは、私にとりまして自分のことのように、いやそれ以上にうれしい出来事です。心よりお慶びを申し上げます。

武久君と私とは、彼（かの）1973年に、当時の東京教育大学附属盲学校の高等部に入学して以来のお付き合いです。今気づきましたが、2023年でちょうど50年になるのですね。とても自由な同校の空気を存分に吸って、私たちは共に青春時代を過ごしました。しょっちゅう寮の互いの部屋を行き来しながら、夜っぴて話に興じたものでした。取るに足らない話題に始まって、最後は決まって実に深遠で大きな話に行きつくのが常でした。

その後、私は筑波大学で言語学、武久君は東京藝術大学で音楽理論と鍵盤楽器演奏と、違う道へと進んでいきましたが、今に至るまで会えばたいてい同じような関心を持ち、同じような本を読んでいて、相変わらず時を忘れて話に興じています。

さて、武久源造君と言えば、すでに押しも押されもしない世界的な大芸術家です。彼の音楽は、障害者に付されがちな「障害がありながら」とか、「見えない目でとらえた」とか、あるいは「心に奏でる」などという枕詞を、一切必要としません。もちろんそこに至るまでには、多くの方々の尊いご尽力とご支援が大いに力あったことは言うまでもありません。そして私たちはその多くを、日本点字図書館の貴重な蔵書やサービスに負っていることにも、疑いの余地はありません。そして、もとをただせばそれは、視覚障害者の自立と、文化への貢献を夢見、資材を賭して戦時中も蔵書を守り抜かれた故本間一夫先生のお志に、端を発しています。

今ここに、本間先生の蒔かれた種は、「障害」のレッテルをものともせず、世界の楽壇を牽引する一人の芸術家となって結実しています。私には、楽園で憩うておられる先生の、こんな快哉の声が聞こえるようです。「これは私の愛する子、我が名を冠した賞に適う者。」

# 表彰のお知らせ

長年にわたり、点訳･朗読･デイジー編集ボランティアとしてご活躍くださっている方々が、下記の大会において表彰されました。おめでとうございます。

**第 72 回東京都社会福祉大会**

知事感謝

水野（みずの）　啓子（けいこ）様：〈朗読〉平成 12 年より朗読 119 タイトル、1,025 時間。プライベートサービスで朗読 91 タイトル、836 時間。対面リーディング 11 年。

会長表彰

武田由紀子（たけだゆきこ）様：〈朗読〉平成 17 年よりプライベートサービスで朗読 62 タイトル、603 時間、デイジー編集 20 タイトル、164 時間。

森平（もりひら）　邦子（くにこ）様：〈点訳〉平成 4 年より点訳 71 タイトル、310 巻、35,871 ページ。校正 16 タイトル、74 巻。

会長感謝

藤田（ふじた）　啓次（けいじ）様：〈朗読〉昭和 55 年より朗読 60 タイトル、430 時間。

増間（ますま）　久子（ひさこ）様：〈デイジー編集〉平成 20 年よりプライベートサービスでデイジー編集 163 タイトル、1,332 時間、朗読校正 2 タイトル、12 時間。

**第 71 回全国盲人福祉施設大会**

創立 70 周年記念特別奉仕活動者（ボランティア）表彰

小田美保子（おだみほこ）様：〈点訳〉昭和 49 年より点訳 216 タイトル、1,407 巻、176,529 ページ。校正 43 タイトル、402 巻。

奉仕活動者（ボランティア）表彰

島崎（しまざき）　方子（まさこ）様：〈点訳〉平成 4 年より点訳 63 タイトル、278 巻、32,931 ページ。校正 16 タイトル、74 巻。

山崎（やまざき）　玉代（たまよ）様：〈朗読〉平成 18 年より朗読 104 タイトル、838 時間。朗読校正 19 タイトル、133 時間。デイジー編集 87 タイトル、714 時間。

**第 53 回朗読録音奉仕者感謝の集い**（鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会共催）

関東甲信越地区表彰

加藤由美子（かとうゆみこ）様：〈朗読〉平成 14 年より朗読 89 タイトル、706 時間。

谷村（たにむら）　恵子（けいこ）様：〈デイジー編集〉平成 13 年よりデイジー編集 141 タイトル、1,917 時間。

※表彰の実績は、推薦時のものです。

# サイトワールド出展報告

用具事業課長　村尾正豊（むらおまさとよ）

昨年の11月1日から3日までの3日間、都内錦糸町のすみだ産業会館サンライズホールにおいて、15回を数える「サイトワールド2023」が開催されました。この催しは、視覚障害者に特化した最先端の技術・機器および、日常生活用品等の展示会（一部販売）、ならびに講演会、シンポジウム、体験会等が催される世界でも例を見ない総合イベントです。今回は、コロナ禍を経て4年ぶりの開催となりましたが、会期中は天候にも恵まれ、遠方からのお客様を含め約3,600名の方々が来場されました。

出展したのは38社で、前回の2019年と比べ7社減となって40社を割りましたが、一方で新規出展はダイハツ工業株式会社、花王、グーグルなどの大企業をはじめとして10社あり、中でもスマホアプリを使用した歩行支援サービスの出展が増えたのは印象的と言えます。

当館は初回から運営等に協力しており、今回も来場される方々の誘導・案内の一部を担うと同時に、「わくわく用具ショップ」を出展しました。そのブースでは、指先の出る手袋や裏表のない靴下、ＩＣレコーダー、折りたたみ傘などの新商品のほか、日常の生活で便利な定番商品を展示即売。ブースの前は二重三重の人だかりができるほどに賑わいました。

期間中、高田馬場の「わくわく用具ショップ」も通常営業をしましたが、日頃と変わらない来館者や電話問い合わせを多くいただき、改めて用具への関心とニーズの高さを実感した次第です。

これからも、その名にあるように、わくわくすると同時に、用具ショップらしく、視覚に障害をお持ちの方の生活を豊かにする商品を選定し取扱っていきたいと思います。またサイトワールドでお披露目された機器類やアプリなどは展示会が終わると、なかなか体験する機会がありません。当ショップで取り扱っていない歩行支援アプリのようなものについても当館を会場に体験会を企画し、皆様が体験できる機会を作っていきたいと思います。

# 高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞しました！

館長　立花明彦（たちばなあけひこ）

全国出版協会によって設立された公益財団法人高橋松之助（たかはしまつのすけ）記念顕彰財団は、高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」を主催しています。この賞は、東京出版販売株式会社（現・株式会社トーハン）４代目社長であった故高橋松之助氏の遺志を心に留めた同夫人が社団法人全国出版協会および出版科学研究所に寄付されたトーハンの株式を基金として、文字・活字文化振興法の理念に則り、文字・活字文化の振興および啓発に資することを目的とし、読書推進と文字・活字文化振興に貢献し、顕著な業績をあげた学校および地方自治体・団体・個人を顕彰するものです。16 回目を数える 2023 年度、この二つの賞のうち「文字・活字文化推進大賞」が当館に贈られました。

改めて当館の事業の歴史を紐解いてみると、1940 年に開館し、点字図書の貸出を開始。以降、1955 年には点字図書の出版を、1958 年には録音図書事業「声のライブラリー」を開始。その後も点字教室、視覚障害者用生活用具の開発と普及活動、デイジー図書の製作・貸出を始めるなど、サービスを拡大してきました。2010 年に始動した「サピエ」では管理を担い、さらには障害者の自立支援や海外支援事業も行っています。このように、日本最大の視覚障害者のための図書館として、点字図書や録音図書の製作・貸出を行うほか、視覚障害者に常に寄り添うさまざまな活動を展開し、読書環境の向上に大きく貢献している点が高く評価されての受賞です。

財団理事長から表彰状

ところで、2019年に「読書バリアフリー法」が制定され、国をはじめとする行政や出版業界等の取り組みに注目と期待が高まっていましたが、具体的かつ大きな動きはありませんでした。しかしながら昨年の夏以降、潮目が変ってきたように見受けられます。そのきっかけとなったのは第169回芥川賞が市川沙央さんの『ハンチバック』に贈られ、記者会見で市川さんが作品を書く原動力について読書バリアフリーが進んでいくことと訴えたことにあります。以来、新聞各紙では頻繁に社説や社会面で読書バリアフリーに関連する記事を目にするようになりました。

このたびの受賞は、こうした動きと無関係ではないように思われます。すなわち、具体的な動きを示していなかった出版界がこのことに気づき、先行する点字図書館の活動に評価を示したものと言えます。別の表現をするならば、出版業界が改めて点字図書館の存在とそこで提供されているサービスを利用している人々、つまりは視覚障害者の存在を認識したことの表れと言えます。この点で、今後の出版界の読書バリアフリーへの取り組みを期待しつつ、受賞を、当館の活動に関わるすべての方々、図書館を利用する方々とともに喜びたいと思います。

記念のトロフィー

昨年11月6日、神保町にある出版クラブで開催された授賞式で挨拶に立った選考顧問の片山善博氏（大正大学地域構想研究所長、元総務大臣、元鳥取県知事）は読書とは、①著者との対話、②思考、③忍耐力を養う行為であると述べられました。三つ目に「忍耐力」を挙げているのは非常にユニークかつ印象的で、視覚障害者にその「読書」の機会を提供する拠り所である当館は、賞に恥じぬよう今後も邁進して参ります。ありがとうございました。

# にってんワークショップ「聞く」開催報告

10月7日、にってんワークショップ「聞く」の第1回目を開催しました。当日は7名のかたにご参加いただきました。

プログラムは5部構成で、第1部「音サイン・音声案内を聞いてみよう」からスタート。家電製品や公共の場等で使用されている10種類の音を聞き、どこで流れている音なのかをクイズ形式で考えていただきました。職員でも全問正解は難しいのでは？と思う難問に、全問正解する参加者もいらしてとても盛り上がりました。

第2部は「音の出る用具の紹介・体験」です。音声案内のある体温計や血圧計、時計、タイマーのほか、コップに液体がたまると音や振動で知らせてくれる液体プルーブなどの説明を聞いたあと、実際に体験していただきました。

第3部「耳で聞く読書」では、音声デイジー図書やシネマ・デイジー図書の一部を聞いていただいたり、視覚障害職員がプレーヤーを操作して、CD版のカタログから希望の商品をどのように探すのかを見学していただきました。

第4部は「スマホも使いこなします！」。生活を便利にしてくれる、様々なアプリを紹介しました。その中でもBe My Eyesというアプリは、テレビ電話機能を使って、視覚障害者がカメラで撮った映像を、そのアプリを通じて接続したボランティアが見て、説明してくれるというものです。お互い匿名でやりとりできます。「帰ったら早速登録します！」という積極的な参加者もいらっしゃいました。

第5部は「こんなとき、どう声をかける？」で、視覚障害者への声かけを学んでいただきました。まず、職員が声かけのポイントについて説明を行い、そのあと館内にある自動販売機の前で、実際に視覚障害職員を相手に買い物のサポートを実践していただきました。ポイントを踏まえ、懸命にサポートをされている姿が印象的でした。

参加者からは「楽しい中にも大切な気づきがあった。」「視覚障害者を見かけたら、これからは積極的に声かけをしていきたい。」など嬉しいお声を多くいただけました。

**次回の開催予定については、当館HPをご覧ください。お申し込みをお待ちしています。**

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

# 縁を育む

利用者サービスグループ　橋口講平（はしぐちこうへい）

当センターでは二年に一度、未経験者を対象とした「音訳者養成講座」を開催しています。読みの表現方法や写真・表の読み方などを中心に、半年をかけて音訳に必要な技術を学んでいただくという、まさに人材を一から養成していく事業です。市報や新聞で紹介されたという好機に恵まれたこともあり、82名もの方にご応募いただきました。そこからオーディションを経て10名ほどに絞り込み、9月末に養成講座が開講しました。

そんな近況もあってか、最近「ご縁」についてよく考えます。それは講座受講中の10名に対してはもちろん、オーディションで選考からはずれてしまった72名に対しても感じることです。センターの事業に多くの方が関心をお持ちくださったことは、本当にありがたいことです。この縁を合否で終わらせるのではなく、つなげていく姿勢が大切だと思っています。ただし、オーディションの結果にショックを受けている皆様との向き合い方や、ご希望のヒアリングなど、丁寧なプロセスを経る必要があることはご説明するまでもありません。

具体的には、まず市内の音訳グループをご紹介しています。またセンターでは音声ガイドの製作に注力していることから、その取り組みについてもご説明した結果、10名ほどのボランティアを新たに受け入れることができました。ただし音訳に比べ音声ガイドは歴史が浅いこともあり、養成に関する具体的なカリキュラムがありません。ここ最近の私はといえば音訳者養成講座の運用よりも、どちらかというと音声ガイドに関する養成の体制づくりに四苦八苦していたと思います。

お陰様で少しは形になりましたが、まだ完璧ではありません。それにカリキュラムは必要ですが、やはり一番大切なのは人的な手厚いフォローです。これをないがしろにしては、縁も満足に育めません。福祉において、「人」をつなぐのは「組織」ではなく、やはり「人」です。ボランティアと職員の関係も決して例外ではありません。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

第13回企画展

# 「江戸から昭和のマイホーム」展　開催中

ふれる博物館館長　伊藤宣真（いとうのぶざね）

現在、ふれる博物館では江戸から昭和にかけての「住」について企画展を開催しています。

昨年、ふれる博物館５周年特別企画「江戸を体感」を実施するにあたり江戸東京博物館にはたいへんお世話になりましたが、同館の分館である江戸東京たてもの園（小金井市）にも視覚障害者向けの建物模型があるとの話をうかがい、今回の企画展につながりました。

江戸東京たてもの園は、現地保存ができない文化的価値の高い古い建物を移築・保存しており、農家、住宅、商家、銭湯や、高橋是清邸（たかはしこれきよ）など貴重な30棟を復元・展示しています。模型はその中から３棟が選ばれ、３Ｄプリンターで製作した外観模型と、実物に近づけた色彩と素材で室内を表した間取り模型を製作しています。江戸時代後期に建てられた藁葺きの農家・吉野家（よしのけ）（三鷹市野崎）、大正時代に建てられた郊外住宅・大川邸（おおかわ）（大田区田園調布）、昭和４年に建てられた銭湯・子宝湯（こだからゆ）（足立区千住元町）の３棟です。

今回はこれらとともに、火鉢や羽釜（はがま）、銭湯の湯桶（ゆおけ）などを貸し出しいただき、そのほか共催の「手と目でみる教材ライブラリー」からは江戸時代の裏長屋の模型、本物の屋根瓦などを借りて展示しています。

この機会に、少し前の時代の生活に触れてみませんか。会期は３月16日土曜日まで、開館日は水曜日、金曜日、土曜日。祝日は休館です。

**※ 事前予約制です**

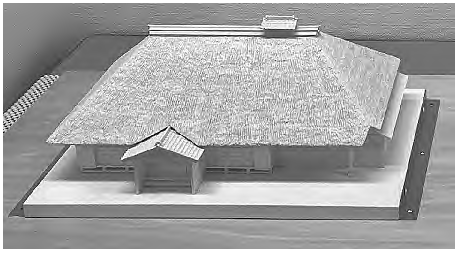
**【お申込み・お問い合わせ】**

**090-3247-7290（10時～16時）**

**（ふれる博物館開館日のみ）**

**03-3209-0241㈹（９時～17時）**

**（その他の日、本館代表番号）**



**吉野家の３Ｄ模型**

# 私と日点

朗読ボランティア　塩月（しおつき）さわ

1998年、知人より日点の対面リーディングのボランティアを紹介していただきました。夫の転勤先で県の点字図書館・朗読のグループ・市立図書館などで録音や対面をしていて東京に戻った時です。月に４～５回のペースで大学の参考書・ラジオの語学テキスト・小学校の算数の問題集・テレビの取説・戯曲等、依頼者の年代も分野も多岐にわたり毎回ドキドキしながら様々な本との出会いを楽しみながら通う日々でした。

1999年に個人朗読のデイジー編集の講習会へ声をかけて頂きデイジー編集校正を、そして録音をと誘って頂くままにやってきました。その後また東京を離れることになり転勤の先々に録音されたテープを送って頂いてデイジー編集校正を続けていました。

2010年､東京に戻ってきた時はマンツーマンでレクディア（朗読録音ソフト）の講習の特訓をして頂き、また対面と録音をやらせて頂くことになりました。専門分野がない私は色々な本を提示頂き、いつも心配しながら始めていますが歴代の職員の方達からの強力なサポートのおかげで今まで続けることが出来ました。

対面で若い時に読まれたという傍線や書き込みがある本を手に取った時は胸がいっぱいになりました。読み終えた時、耳からの読書は別の味わいがあるとおっしゃって頂きました。個人朗読の電子楽器（管楽器）のマニュアルの依頼では挿絵・図表・運指の説明等が多く力不足でどこまで伝わるか不安に思いながら仕上げました。しばらくして担当の方から、依頼者の基本的な操作は十分に出来るようになり楽しんで演奏をなさっている、と書かれたお便りを頂きました。いつも手元において読み返しながら次の対面・録音に取り組む支えとしています。本間先生の著作の校正を対面でやらせて頂きお話をうかがえたのも貴重な有り難い経験でした。

日点との出会いのご縁を心より感謝しております。

# 返礼品に代わるもの

総務課　久保典子（くぼのりこ）

年末が近づくとふるさと納税の話題を耳にする機会が増えます。返礼品の人気ランキングには、ブランド牛、豪華な海の幸、高級な果物が並びます。片や当館へのご寄付には返礼品にあたる物のご用意がありません。お送りしているのは領収書と税額控除に係る証明書のみ。にもかかわらず､2022年度には個人･団体の皆様より延べ7,455件ものご支援を賜りました。改めまして心より御礼申し上げます。

募金担当になり日が浅い頃、初めてお気持ちをお寄せくださった方にご寄付の経緯を伺ったことがあります。「当館へのご支援をどのようにお知りになったのですか？」 遠方にお住まいの方だったため、点字についてインターネットで検索された際に“たまたま”当館のホームページに辿り着いたのではないかと思い、ごく気軽に伺いました。その方はさらりと「知人から日本点字図書館は寄付に値する団体だと聞きました」とおっしゃいました。

その一言は、マニュアルを片手に1日をこなしているだけだった私に非常に強いメッセージとなりました。「日本点字図書館を信頼していますよ。寄付者の思いに応える働き方をしてくださいね。」と受け止めたからです。後日、知人の方のお名前を伺う機会があり、20余年にわたり当館を支えてくださっている方だと知りました。それまで、本日頂戴したご寄付は“当館の今を応援してくださるもの”と勘違いしていた私は、このお電話がなければ、“これまでの当館事業に対しての評価”と“今後さらに発展していくことへの期待”が含まれていることに気づけずにいたかもしれません。

当館は昨年11月10日に創立記念日を迎え、おかげ様で84年目の歩みを始めることができました。現在に至るまでに数えきれない程大勢の皆様からお力添えをいただいておりますが、現職員の私が皆様に感謝を示すことのできる唯一の方法は、ご支援に報いるよう、創立者・本間一夫の思いを継ぎ、「日本点字図書館の名を汚さない働き方をすること」なのかもしれません。

「返礼品はございませんが、見えない･見えにくい方々に返礼品を超えるサービスをお届けしております」と申し上げられるよう、日々努めてまいります。

# ご存知ですか？ こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な商品をご紹介いたします。
ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。
お問い合わせ　03−3209−0751
URL　https://yougu.nittento.or.jp/

## ユニバーサルタイマー

［大きさ］（幅）72 ×（高さ）96 ×（奥行）25mm
［重さ］約 106g
［メーカー］株式会社ドリテック
［価格］2,080 円（税込み）

全国盲ろう者協会協力のもと、より多くのかたに「使いやすい」と思っていただけるように細部まで工夫が施された、ユニバーサルタイマーです。

表面の３分の１ほどが液晶画面で、画面いっぱいに縦２cm 横１cm の数字が表示されます。また白黒反転でかつバックライトが搭載されているので、とても見やすくなっています。

アラーム鳴動時は２つの緑色のＬＥＤが交互に点滅します。ボタンを押したときや、セット時間になったとき、音を鳴らすか振動させるかを選ぶことができます。また、音と振動の両方を鳴らすことも、完全にサイレントにセットしてお使いいただくこともできます。

裏側には磁石とフック、スタンドがついているため、置き・掛け・貼り付けができ、シーンに合わせて使えます。カウントダウンは１秒から 99 時間 99 分まで設定できます。また、最大 99 時間 59 分までのカウントアップ機能が付いています。

# チャリティコンサートご協力のお礼

昨年 10 月 28 日（土）に上野の東京文化会館にて開催しました当館のチャリティコンサート「ほのカルテット with 澤 和樹～弦楽アンサンブルの愉しみ～」にご協力いただき、誠にありがとうございました。本コンサートでは弦楽四重奏団ほのカルテットの岸本萌乃加さん（ヴァイオリン）、林　周雅さん（ヴァイオリン）、長田健志さん（ヴィオラ）、蟹江慶行さん（チェロ）、そして澤 和樹さん（ヴィオラ）をお迎えし、素晴らしい演奏を披露していただきました。ご支援ご来場いただいた皆様、ならびにご協賛、ご後援いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

次回のチャリティコンサートは、本年 11 月 24 日（日）の午後に、今回と同じ東京文化会館小ホールにて、澤 和樹さんとピアニストの梯　剛之さんにご出演いただく予定です。開催の際には多くの方にご来場いただき、当館の運営を支えていただけますと幸いです。

「明日につながる支援の力」は都合により休載します。


にってんフォーラム〈第130号〉　2024　冬

発　行　2024年１月25日〈年４回発行〉
発行人　長岡英司
編集人　立花明彦
発行所　社会福祉法人日本点字図書館
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4
電話03-3209-0241（代）　FAX03-3204-5641
URL　https://www.nittento.or.jp/



＊本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、ＳＮＳ等で発信したりウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

あなたと映画を観たい。

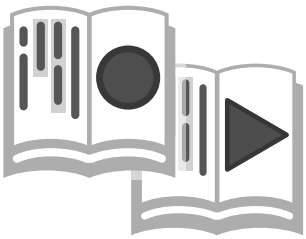
# 映画みにこいこ！

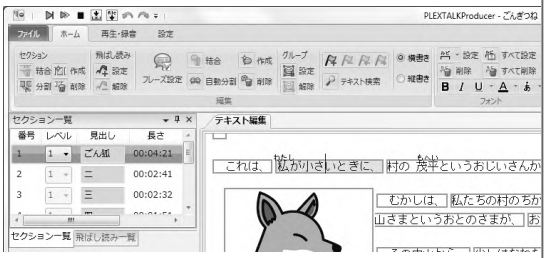
「スマホで聞く音声ガイド」 音

NPO メディア・アクセス・サポートセンター
〒151-0061 東京都渋谷区初台 1-51-1
初台センタービル 709号室
MASC 検索

ポッドキャスト

# 音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール






# PLEXTALK Producer

## で作れる 新しい DAISY のカタチ

**音声DAISY** ・・・ 録音図書の標準方式

- テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- CD 書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

**テキストDAISY** ・・・ 音声のない DAISY

- データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

**マルチメディアDAISY** ・・・ 音声とテキストのマルチメディア

- ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

| | |
|---|---|
| サポート OS | Windows11、Windows10、Windows8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート |
| プロセッサ | Intel Core i3 以上推奨 |
| メモリ | 4GB 以上推奨 |

レイアウトツール　文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々！

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット　¥88,000 ( 税込 )

PLEXTALKProducer 単体　¥49,500 ( 税込 )　　簡単取り込みオプション ¥38,500 ( 税込 )

販売元：
**シナノケンシ株式会社**
〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ:
**www.plextalk.com**

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。